

平成 27 年度 決算報告書



事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、新興国経済の成長鈍化や原油価格の下落、年度末にかけての円高の進行などの不安要素により先行き不透明感が強まり、個人消費の停滞が目立ちました。

広告業界においても市況は低調に推移し、平成27年日本の総広告費（1～12月、㈱電通発表）はインターネット広告費の伸びにより前期比0.3%の微増となったものの、新聞・雑誌・ラジオ・テレビの所謂マスコミ4媒体については前期比2.4%減となり、既存のメディア事業者にとっては厳しい経営環境となりました。

当社グループにおいても放送事業収入のうち主力のタイム収入が減収となり、スポット収入は前年並みに留まりましたが、セールス・プロモーション企画の販売等による放送付帯収入が増収となり、さらに、開局45周年記念イベントに取り組んだ企画・制作事業、またインフォメーションプロバイダー事業が売上を伸ばした結果、当連結会計年度における当社グループ全体の売上高は192億6千2百万円（前期比3.5%増）となりました。しかし、タイム収入の減収による放送事業の利益低下に加え、賃貸用ビル「メディアセンター」の売却に伴う不動産賃貸収益の減少等の影響により、営業利益については15億5百万円（前期比4.2%減）となりました。経常利益については、BIC㈱（持分法適用関連会社）を中心に推進するi-dio（V-Lowマルチメディア放送）の開業準備費用の計上により14億円（前期比18.6%減）となりましたが、前述の賃貸用ビルの売却益（特別利益）の計上により親会社株主に帰属する当期純利益は11億5千3百万円（前期比10.0%増）となりました。

当社単体の業績については、売上高が142億7千1百万円（前期比1.5%減）、営業利益が9億8千万円（前期比18.7%減）、経常利益が12億4千3百万円（前期比7.2%減）、当期純利益が13億2千4百万円（前期比73.4%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

当社は平成27年4月、開局45周年を迎えました。当社の行動理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ」「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を象徴するイベントとして毎年実施している「EARTH×HEART LIVE 2015」を、今回は45周年記念スペシャルとし、4月に東京国際フォーラムで開催しました。松任谷正隆の総合演出のもと、松任谷由実、秦基博、JUJU、「JET STREAM」（月～金曜 24:00～24:55 全国ネット）の“機長”大沢たかおが、未来の子供たちに残したい地球を音楽と映像の力で表現、追加公演も含めた2日間のチケットが完売となりました。この模様は全国38局ネットで放送したほか、上海電台、中国国際放送、Y.E.S. 93.3FM（シンガポール）、Radio Thailand（タイ）、BBC（イギリス）、カレッジラジオ（アメリカ）等を通じ、海外のラジオ局へも配信しました。

「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の行動理念の実践の象徴として、東日本大震災発生直後からレギュラー番組「LOVE&HOPE」（月～金曜 6:30～6:40 全国ネット）を通じて被災地の復興への想いを伝える取材活動を現在も継続する中、5年目を迎えFM仙台（Date fm）との共同制作によるドキュメンタリードラマ「ライターをつぶやき～河北新報の5年～」（3月6日 19:00～19:55 全国ネット）を放送。また平成23年から継続している番組出演者SEKAI NO OWARIと共同で制作した東日本大震災復興支援チャリティ・リストバンド「STAY STRONG」の販売による募金総額が2,500万円を超え、JFNヒューマンコンシャス募金を通じて「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」へ寄付され、復興に役立てられています。

また、レギュラー番組「PET FRIENDLY～ペットと人のやさしい関係～」（日曜 7:00～7:30 東京ローカル）では、1月からタイトルと内容を一新。社会問題化している動物たちの殺処分を無くすため「終生飼育」をテーマとし、ペットとの共生による愛情豊かなライフスタイルを提案しています。

10代の心に向き合い続けて放送10周年を迎えた「SCHOOL OF LOCK!」では、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられる改正公職選挙法の成立を受けて、JFNネットワークと総務省の連携により、全国47都道府県において、9都市での「選挙権年齢が18歳以上に。inシンポジウム」をはじめ、38都市でワークショップを開催しました。そのキックオフとなった12月5日、としまセンタースクエア（東京）でのシンポジウムには高市早苗総務大臣が登場、番組出演者共々、会場に集まった10代リスナーに向けて「あなたの大事な一票を考えて行使してください」と呼びかけ、大きな反響を得ました。

この他、スマホユーザーを中心とした新たなリスナー拡大のための施策として統合メディア戦略を推し進め、番組から選りすぐった話題を読み物記事として配信するニュースサイト「TOKYO FM+」を4月からスタートさせました。Yahoo!ニュースへの配信も実現し、2月には655万/月を超えるPVを達成しました。また大晦日放送の「SCHOOL OF LOCK!」（月～木曜 22:00～23:55/金曜 22:00～22:55 全国ネット）では、LINE(株)が同月にスタートさせたライブ配信プラットフォーム「LINE LIVE」に初めてコンテンツを提供。スペシャルゲストの長渕剛が全国のリスナーと新年の希望を語り合い、演奏する模様を生放送と同時に動画で配信し、約100万人（LINE公式アカウント登録者の10人に1人）が映像を視聴するなど高い注目を集めました。

10月改編では「TOKYO FM WORLD」（月～水曜 20:00～21:15 東京ローカル）がスタート、世界最大級のインターネットラジオプラットフォーム「TuneIn」上に、日本の音楽、カルチャー、観光情報等を紹介する多言語コンテンツを配信し、番組とのコンテンツ連携をしています。同番組では12月に中国最大級の音楽動画サイト「音悦Tai」とパートナーシップを結び、同サイト制作の中国のリアルな音楽情報コンテンツを日本で初めてオンエアしました。

また、東京西部・多摩地区の受信環境改善を目的に12月14日、檜原村に中継局を開設（周波数86.6MHz）、周辺地域のリスナーからクリアで快適な受信が出来るようになったとの評価をいただいています。

以上のような活動の結果、ビデオリサーチ社首都圏聴取率調査では、年間全6回調査のうちコアターゲットのM1・F1（20～34歳男女）区分の聴取率において3回首位を獲得したことをはじめ（4月、8月、12月）、12～59歳のリーチ（接触率）では13期連続で首位を継続するなど、コアターゲット及びその前後の世代に支持を広げています。

番組の質の向上に取り組む中、第53回ギャラクシー賞では、戦後70年特別番組「ポップコーン・オン・ザ・ギンザ1945-1952」（8月31日 19:00～20:45 東京ローカル）がラジオ部門奨励賞を受賞しました。さらに、ラジオ部門年間入選作品には、2月17日放送の「SCHOOL OF LOCK!」が学校を卒業したくないリスナーと正面から向き合う企画で、また前述の東日本大震災特別番組「ライターをつぶやき～河北新報の5年～」が宮城県女川町での緻密な継続的取材活動とそのドラマ演出で、それぞれ高い評価を得た当社2作品を含む全ラジオ局から選ばれた計8作品の中から大賞が6月の授賞式で発表されます。

次世代の新たなコミュニケーション・プラットフォーム i-dio (V-Low マルチメディア放送) は、3月1日に東京、大阪、福岡の3都市でプレ放送を開始。7月1日に予定しているフルサービス開始に向けて準備を進めています。

なお、これに先立つ平成27年10月15日には、持株会社BIC(株)、ハード事業者(株)VIP、関東甲信越地域のソフト事業者東京マルチメディア放送(株)、主要なコンテンツプロバイダーであるTOKYO SMARTCAST(株)と(株)アマネク・テレマティクスデザインの5社共同記者発表会を開催し、V-Low マルチメディア放送の新名称「i-dio」のお披露目を行いました。

<企画・制作事業活動>

企画・制作事業においては、4月、5月にポール・マッカートニー、テイラー・スウィフト東京ドーム公演という昨年度では最大級の海外アーティストの公演に相次いで参画し、大きな話題を呼びました。また、山下達郎デビュー40周年記念全国ツアーをはじめ、福山雅治の「福山☆冬の大感謝祭」、36回の歴史を刻む冬のリゾートコンサート松任谷由実「SURF&SNOW

in Naeba」など、レギュラー出演者である大物アーティストの公演を主催いたしました。

演劇ではブロードウェイミュージカル「天使にラブ・ソングを〜シスター・アクト〜」を主催し大ヒットを記録したほか、漫画やアニメを原作とする演劇の新しい潮流“2.5次元ミュージカル”に取り組み、「NARUTO」や「終わりのセラフ」など社会現象化した人気漫画の舞台に参画、当社コアターゲットの20代女性を中心に支持を集めるヒット作となりました。

8月には作詞家生活45周年を迎えた松本隆のライブ「風街レジェンド2015」を主催、20組以上の松本氏ゆかりの日本ポップス界を代表するボーカリストたちが出演して30曲以上に及ぶヒット曲が演奏され、音楽史の金字塔を打ち立てました。

映画では夏休み最大の話作「進撃の巨人・前後編」製作に参画。その他、国立新美術館（東京）で20世紀美術を代表するルネ・マグリットの大回顧展を開催しました。

番組発のイベントとしては、8月に「SCHOOL OF LOCK！」主催の夏フェス「未確認フェスティバル」を実施、3,254組の中から勝ち上がった8組の10代アーティストが会場を熱狂させた他、3月に開催した同番組と㈱ベネッセコーポレーションによる卒業ライブ企画「Whistle Song」では、有明コロシアム（東京）が10代リスナーであふれ返りました。10月には、「あ、安部礼司〜BEYOND THE AVERAGE〜」（日曜 17:00〜17:55 全国ネット）のラジオドラマの公開収録を、開局45周年を記念して日本武道館で行なうという初の試みを成功させました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、主力事業であるモバイル端末向けコンテンツ配信事業において、通信キャリアが運営する定額アプリ使い放題サービスへのコンテンツ提供事業が引き続き好調を維持し、売上を牽引しました。プラットフォームの拡充のため、KDDI「au スマートパス」、NTT docomo「スゴ得コンテンツ」に加え、平成27年5月からは新たにソフトバンク「App Pass」へのコンテンツ提供がスタート、これにより主要3キャリアの定額アプリ使い放題サービスすべてにチャンネルを持つこととなりました。「App Pass」向けの第一弾コンテンツとしてリリースした「有名スタンプ☆取り放題」は総合人気ランキングで全アプリ中第1位を獲得。これを受けて提供を開始した「au スマートパス」でも上位にランクインするヒット作となり、自社の強みである企画力・デザイン力を活かした商品開発がユーザーの支持を集めました。

さらに、企業向けアプリやWEBサービスの開発受託を行うソリューション事業においても、既存の顧客からの業務受注の維持・積上げに努めるとともに、新規顧客の開拓に戦略的に取り組みました。

<賃貸事業活動>

平成27年4月、賃貸物件として運用していたオフィスビル「メディアセンター」を借入人の東京メトロポリタンテレビジョン(株)（持分法適用関連会社）に譲渡いたしました。

<その他の事業活動>

活動30周年を迎えたTOKYO FM少年合唱団は、オペラ「魔笛」「トスカ」等への出演をはじめとし、幅広いコンサート活動を行いました。この他、直営2店舗によるレストラン事業を展開しました。

前期比較損益計算書（連結）

平成27年4月1日～平成28年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成28年3月期 (H27. 4. 1～H28. 3. 31)	平成27年3月期 (H26. 4. 1～H27. 3. 31)	前期比
売上高	19,262,246	18,603,332	103.5%
売上原価	12,090,000	11,632,078	103.9%
売上総利益	7,172,246	6,971,254	102.9%
販売費及び一般管理費	5,666,976	5,400,173	104.9%
（内のれん償却額）	90,752	90,752	100.0%
営業利益	1,505,269	1,571,080	95.8%
（売上高営業利益率）	7.8%	8.4%	
営業外収益	81,256	231,535	35.1%
営業外費用	185,809	81,703	227.4%
経常利益	1,400,717	1,720,913	81.4%
（売上高経常利益率）	7.3%	9.3%	
特別利益	599,938	72,804	824.0%
特別損失	110,426	126,069	87.6%
税金等調整前当期純利益	1,890,229	1,667,649	113.3%
法人税、住民税及び事業税	663,943	353,744	187.7%
法人税等調整額	44,855	244,079	18.4%
当期純利益	1,181,430	1,069,825	110.4%
非支配株主に帰属する 当期純利益	27,799	20,708	134.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,153,630	1,049,116	110.0%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較損益計算書（当社単体）

平成27年4月1日～平成28年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成28年3月期 (H27.4.1～H28.3.31)	平成27年3月期 (H26.4.1～H27.3.31)	前期比
売上高	14,271,930	14,491,118	98.5%
売上原価	9,288,067	9,194,589	101.0%
売上総利益	4,983,862	5,296,529	94.1%
販売費及び一般管理費	4,003,080	4,089,504	97.9%
営業利益	980,782	1,207,024	81.3%
（売上高営業利益率）	6.9%	8.3%	
営業外収益	311,931	212,372	146.9%
営業外費用	49,244	78,972	62.4%
経常利益	1,243,469	1,340,424	92.8%
（売上高経常利益率）	8.7%	9.2%	
特別利益	743,259	55,036	1350.5%
特別損失	63,589	125,961	50.5%
税引前当期純利益	1,923,139	1,269,498	151.5%
法人税、住民税及び事業税	563,988	293,627	192.1%
法人税等調整額	34,502	212,003	16.3%
当期純利益	1,324,648	763,867	173.4%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較売上高内訳書(当社単体)

平成27年4月1日～平成28年3月31日

(単位:千円)

	平成28年3月期 (H27.4.1～H28.3.31)	平成27年3月期 (H26.4.1～H27.3.31)	前期比
売上高	14,271,930	14,491,118	98.5%
放送事業収入	12,664,101	12,649,465	100.1%
放送収入	8,363,663	8,556,883	97.7%
タイム放送料	5,907,793	6,121,883	96.5%
スポット放送料	2,455,869	2,434,999	100.9%
制作収入	2,157,506	2,169,675	99.4%
その他	2,142,931	1,922,905	111.4%
企画事業収入	1,282,545	1,183,929	108.3%
賃貸事業収入	232,607	562,828	41.3%
その他事業収入	92,675	94,895	97.7%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

51期(通期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

51期	50期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	大日本印刷
5	19	オリコビジネス&コミュニケーションズ
6	14	エスプロックス
7	9	ビデオプロモーション
8	5	東急エージェンシー
9	7	オフィスフラッグス
10	10	ユータムエンタープライズ

<タイム>

51期	50期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	大日本印刷
5	6	オリコビジネス&コミュニケーションズ
6	10	ビデオプロモーション
7	5	オフィスフラッグス
8	8	東急エージェンシー
9	6	第一通信社
10	9	読売エージェンシー

<スポット>

51期	50期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	アサツーディ・ケイ
4	8	エスプロックス
5	4	ユータムエンタープライズ
6	5	放送文化事業
7	6	東急エージェンシー
8	12	リビコー
9	9	大日本印刷
10	19	インスマート

平成28年3月期 決算短信

平成28年5月25日

会社名 株式会社 エフエム東京
 URL http://www.tfm.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 千代 勝美
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経営管理室長 (氏名) 東 和志 TEL (03) 3221-0080
 配当支払開始予定日 平成28年6月28日

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期の連結業績 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期	19,262	3.5	1,505	△4.2	1,400	△18.6	1,153	10.0
27年3月期	18,603	△1.9	1,571	20.6	1,720	8.1	1,049	7.7

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
28年3月期	1,287 62	— —	4.1	3.7	7.8
27年3月期	1,170 96	— —	3.9	4.7	8.4

(参考) 持分法投資損益 28年3月期 △134百万円 27年3月期 133百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期	37,997	29,468	76.0	32,242 23
27年3月期	37,313	28,154	74.6	31,050 08

(参考) 自己資本 28年3月期 28,887百万円 27年3月期 27,819百万円

2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計) 百万円	配当性向 (連結) %	純資産 配当率(連結) %
	中間期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭			
27年3月期	60 00	90 00	150 00	135	12.8	0.5
28年3月期	60 00	60 00	120 00	108	9.3	0.4

(注) 27年3月期 期末配当金の内訳 普通配当 60円00銭 開局45周年記念特別配当 30円00銭

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規1社 (社名) TOKYO SMARTCAST株式会社 除外一社

(注) TOKYO SMARTCAST株式会社は、当連結会計年度より重要性が増したことに伴い、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 有
- ② ①以外の会計方針の変更 有
- ③ 会計上の見積りの変更 有
- ④ 修正再表示 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期	900,000株	27年3月期	900,000株
② 期末自己株式数	28年3月期	4,057株	27年3月期	4,057株
③ 期中平均株式数	28年3月期	895,943株	27年3月期	895,943株

（参考）個別業績の概要

1. 28年3月期の個別業績（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期	14,271	△1.5	980	△18.7	1,243	△7.2	1,324	73.4
27年3月期	14,491	△3.2	1,207	5.5	1,340	8.4	763	5.5

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
28年3月期	1,471	83	—	—
27年3月期	848	74	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
28年3月期	36,785		29,450		80.1		32,722	34
27年3月期	36,267		28,196		77.7		31,329	22

（参考）自己資本 28年3月期 29,450百万円 27年3月期 28,196百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、会社法に基づく連結計算書類及び計算書類等の監査手続は終了し、適正である旨の監査報告書を受領しております。